

参考資料

番号	資料名
参考資料 1	「県立特別支援学校一覧」
参考資料 2	「栃木県立特別支援学校配置図」
参考資料 3	「令和 5 年度県立特別支援学校幼児児童生徒数」
参考資料 4	「県立特別支援学校在籍者数の推移」
参考資料 5	「家庭・教育・福祉の連携「トライアングル」プロジェクト報告」～障害のある子どもと家族をもっと元気に～概要
参考資料 6	「寄宿舍の設置に関する国の法令等」
参考資料 7	「栃木、那須特別支援学校寄宿舍に係る経緯」
参考資料 8	「特別支援学校における寄宿舍に係る他県調査結果まとめ」
リーフレット	「個別の教育支援計画の作成と活用」

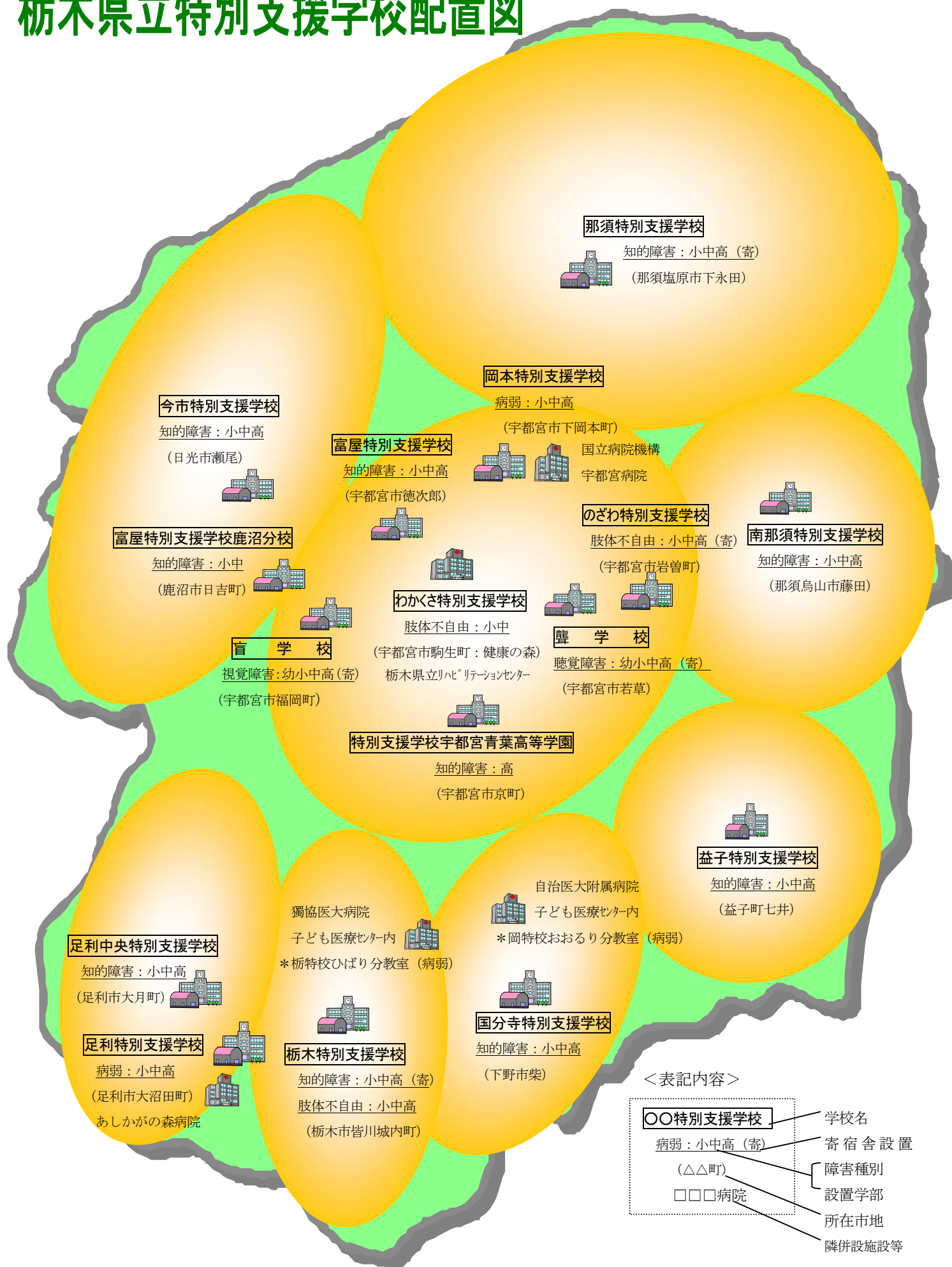
県立特別支援学校一覧

令和5(2023)年5月1日現在

障害 種別	学 校 名	設置学部 (学 科)	所 在 地 電 話 番 号	寄 宿 舎	ス ク ー ル バ ス	通学圏等
視 覚 障 害	盲 学 校	幼 小 中 高 〔普通科 保健医療科 保健医療科 理療科〕	〒 321-0342 宇都宮市福岡町 1297 Tel 028 (652) 2331	○	○	県内全域
聴 覚 障 害	聾 学 校	幼 小 中 高 〔普通科 情報機械科 生活技術科〕	〒 320-0072 宇都宮市若草 2-3-48 Tel 028 (622) 3910	○	○	県内全域
知的 障 害	富 屋 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 321-2116 宇都宮市徳次郎町 39-1 Tel 028 (665) 2281		○	宇都宮市
	富 屋 特別支援学校 鹿 沼 分 校	小 中	〒 322-0074 鹿沼市日吉町 521-6 Tel 0289 (63) 5111		○	鹿沼市 (小学部・中学部)
	宇 都 宮 青 葉 高 等 学 園	高 (職業科)	〒 320-8506 宇都宮市京町 9-32 Tel 028 (639) 2080			県内全域
	今 市 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 321-1264 日光市瀬尾 1640-22 Tel 0288 (22) 6417		○	日光市 塩谷町 鹿沼市の北部地域 (高等部)
	国 分 寺 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 329-0412 下野市柴 6 - 2 Tel 0285 (44) 5121		○	上三川町 野木町 小山市 下野市 ※国分寺学園
	栃 木 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 328-0067 栃木市皆川城内町 1053 Tel 0282 (24) 7575	○	○	壬生町 栃木市 鹿沼市の栗野地域 (小・中学部) 鹿沼市の南部及び栗野地域 (高等部)
	足 利 中 央 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 326-0005 足利市大月町 871-3 Tel 0284 (41) 1185		○	佐野市 足利市
	益 子 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 321-4106 益子町七井 3650 Tel 0285 (72) 4915		○	真岡市 益子町 茂木町 市貝町 芳賀町
	那 須 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 329-2712 那須塩原市下永田 8-7 Tel 0287 (36) 4570	○	○	矢板市 大田原市 那須町 那須塩原市 ※たかはら学園 ◇なす療育園
	南 那 須 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 321-0532 那須烏山市藤田 1181-152 Tel 0287 (88) 7571		○	さくら市 那須烏山市 高根沢町 那珂川町 ※大和久学園 ※桜ふれあいの郷
肢 体 不 自 由	の ぎ わ 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 321-0973 宇都宮市岩曽町 1177-2 Tel 028 (689) 2655	○	○	県内全域
	わ か く さ 特別支援学校	小 中	〒 320-8503 宇都宮市駒生町 3337-1 Tel 028 (622) 3650			県内全域 栃木県立リハビリテーションセンター
	栃 木 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 328-0067 栃木市皆川城内町 1053 Tel 0282 (24) 7575		○	壬生町 野木町 小山市 栃木市 下野市 鹿沼市の栗野地域 ◇星風会病院星風院
病 弱	岡 本 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 329-1104 宇都宮市下岡本町 2160 Tel 028 (673) 3456			県内全域 ◇独立行政法人国立病院機構宇都 宮病院 自治医科大学附属病院
	栃 木 特別支援学校	小 中	〒 328-0067 栃木市皆川城内町 1053 Tel 0282 (24) 7575			県内全域 獨協医科大学病院
	足 利 特別支援学校	小 中 高 (普通科)	〒 326-0011 足利市大沼田町 619-1 Tel 0284 (91) 1110			県内全域 ◇あしかがの森足利病院

※は福祉型障害児入所施設、◇は医療型障害児入所施設である。

栃木県立特別支援学校配置図



令和5年度 県立特別支援学校幼児児童生徒数

令和5(2023)年5月1日現在

障害種別	学部別 学校名	幼稚部	小学部	中学部	高等部		(寄宿舎)	合計
					本科	専攻科		
視覚障害	盲 学 校	0	8	6	8	7	(13)	29
聴覚障害	聾 学 校	20	15	8	17		(14)	60
知的障害	富屋特別支援学校		173	92	117			382
	同 鹿 沼 分 校		38	24				62
	宇都宮青葉高等学園				222			222
	今市特別支援学校		30	21	39			90
	国分寺特別支援学校		97	74	109			280
	栃木特別支援学校		68	40	82		(16)	190
	足利中央特別支援学校		97	59	123			279
	益子特別支援学校		87	44	72			203
	那須特別支援学校		108	68	134		(26)	310
	南那須特別支援学校		53	32	66			151
	小 計		751	454	964		(42)	2169
肢 体 不自由	のざわ特別支援学校		56	27	36		(17)	119
	わかくさ特別支援学校		21	5				26
	栃木特別支援学校		20	13	20			53
	小 計		97	45	56		(17)	198
病 弱	岡本特別支援学校		20	15	11			46
	栃木特別支援学校		2	4				6
	足利特別支援学校		19	6	13			38
	小 計		41	25	24			90
合 計		20	912	538	1,069	7	(86)	2,546

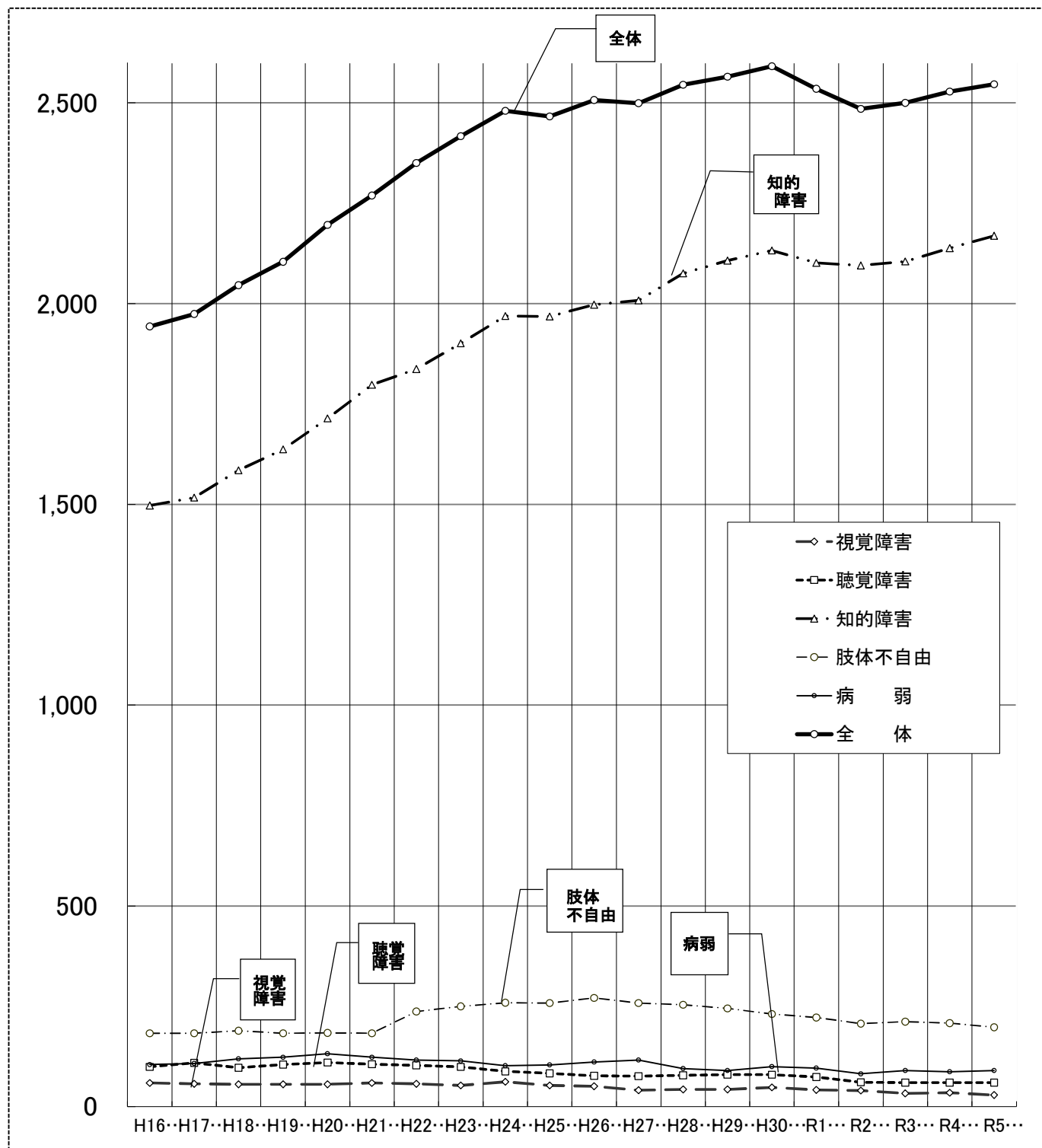
* 寄宿舎の舎生数()は内数

参考資料4

県立特別支援学校在籍者数の推移

〔令和5(2023)年5月1日現在〕

	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023
視覚障害	59	57	56	56	56	59	57	53	62	53	51	41	43	43	48	42	40	33	35	29
聴覚障害	99	109	97	105	110	106	103	99	88	83	77	76	78	80	80	74	61	60	60	60
知的障害	1,497	1,517	1,585	1,637	1,714	1,798	1,837	1,901	1,969	1,968	1,997	2,008	2,075	2,107	2,132	2,101	2,095	2,105	2,138	2,169
肢体不自由	183	183	189	183	184	183	237	250	259	258	271	258	254	245	231	222	207	212	208	198
病 弱	105	108	119	123	132	123	116	114	102	104	111	116	95	90	100	96	82	90	87	90
全 体	1,943	1,974	2,046	2,104	2,196	2,269	2,350	2,417	2,480	2,466	2,507	2,499	2,545	2,565	2,591	2,535	2,485	2,500	2,528	2,546



家庭・教育・福祉の連携「トライアングル」プロジェクト報告

～障害のある子と家族をもっと元気に～ 概要



1. 教育と福祉との連携に係る主な課題

学校と放課後等デイサービス事業所において、お互いの活動内容や課題、担当者の連絡先などが共有されていないため、円滑なコミュニケーションが図れておらず連携できていない。

2. 保護者支援に係る主な課題

乳幼児期、学齢期から社会参加に至るまでの各段階で、必要となる相談窓口が分散しており、保護者は、どこに、どのような相談機関があるのかが分かりにくく、必要な支援を十分に受けられない。

今後の対応策

1. 教育と福祉との連携を推進するための方策

- ・教育委員会と福祉部局、学校と障害児通所支援事業所との関係構築の「場」の設置
- ・学校の教職員等への障害のある子供に係る福祉制度の周知
- ・学校と障害児通所支援事業所等との連携の強化
- ・個別の支援計画の活用促進

2. 保護者支援を推進するための方策

- ・保護者支援のための相談窓口の整理
- ・保護者支援のための情報提供の推進
- ・保護者同士の交流の場等の促進
- ・専門家による保護者への相談支援

【具体的な取組例】

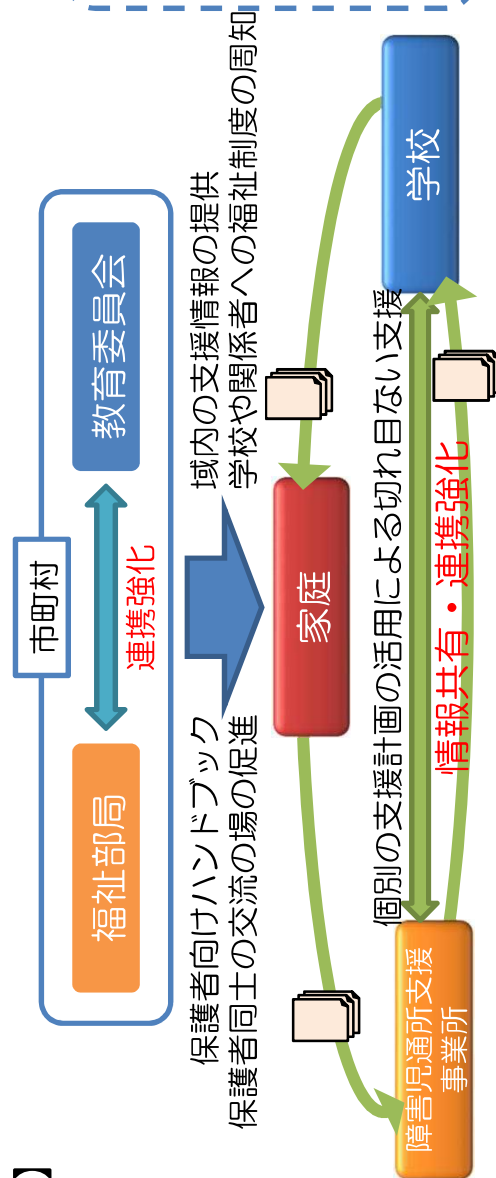
(厚生労働省)
・放課後等デイサービスガイドラインの改定

・障害福祉サービス等報酬改定で拡充した連携加算を活用し、学校との連携を更に推進。

(文部科学省)

・個別の支援計画を活用し、切れ目ない支援体制を整備する自治体への支援

・保護者や関係機関と連携した計画の作成について省令に新たに規定



寄宿舎の設置に関する国の法令等

■学校教育法

〔寄宿舎の設置義務〕

第 78 条 特別支援学校には、寄宿舎を設けなければならない。ただし、特別の事情のあるときには、これを設けないことができる。

◆逐条 学校教育法 （令和 4 年 8 月 8 日第 9 次改訂版 学陽書房）

第 78 条 【注解】

二 特別支援学校について、寄宿舎を義務設置としたのは、これらの学校に在学する児童生徒の状況及び特別支援学校の設置状況にかんがみて、特別な場合を除き、通学が困難な児童生徒のために、寄宿舎を設置することが必要であるとの考えによるものである。

寄宿舎を設けないことができる「特別の事情」とは、就学者が自宅から通学可能な範囲内にのみ居住する場合とか、医療機関とか児童福祉施設に併設する学校で、就学者が医療機関又は児童福祉施設の入所者に限定されている場合である。

■「特別支援学校施設整備指針」

令和 4 年 6 月文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部

第 1 章総則 第 3 節 特別支援学校施設整備の基本的留意事項

4 施設機能の設定

（9）寄宿舎生活の分析とその条件

（中略）通学が困難な幼児児童生徒のために設置するという観点に加えて、自立と社会参加に向けた日常生活の指導を行う観点から施設機能を設定することも有効である。

※「有効である」とは…必要に応じて付加・考慮することが有効なもの

■過去の判例

【H21. 1. 30 大阪地裁判決】（判決抜粋）

- ・学校教育法上、寄宿舎が生活指導の場として位置づけられそのような役割を果たすことが期待されているとしても、それは、そのような生活指導を行うこと自体が寄宿舎を設置する目的なのではなく、寄宿舎への入舎によって本来家庭において行われるべき生活指導を家庭において行うことができなくなることに必然的に伴う要請に基づくものであるということが出来る。
- ・家庭がその果たすべき役割を果たすことができないことについての施策は、本来的に特別支援教育制度以外の枠組みにおいて検討されるべきもの
- ・特別支援教育の対象となる児童及び生徒に寄宿舎における生活指導等を受ける利益が同法上保障されていると解することはできない。

【H25. 9. 12 大阪高裁判決】（判決抜粋）

- ・「学校教育法 78 条が特別支援学校において寄宿舎を設置している本来の趣旨は、児童生徒の通学を保障することにあると解するのが相当である上、寄宿舎における生活指導を、特別支援学校における特別支援教育の一環として位置付ける教育施策があり得ることは否めないものの、それが唯一必然的なものであるということもできない以上、そのような施策を採用するか否か自体も、教育施策の実行者である被控訴人（大阪市）の裁量にゆだねられているべきである。」

※学校廃止処分取消請求控訴事件の大阪高裁判決の概要

- ・ 判決日 : 平成25年 9 月12日
- ・ 判決結果 : 控訴棄却
- ・ 申立人 : 養護学校中学部生徒及び保護者
- ・ 事案の概要 : 特別支援学校である大阪市立 A 養護学校を廃止することなどを内容とする学校設置条例の一部を改正する条例を制定したところ、当時同校に在学していた児童生徒又はその保護者らが、廃止の取消し等を求めた事案。

参考資料 7

栃木、那須特別支援学校寄宿舎に係る経緯

R3.	7. 20	栃木、那須の保護者へ説明（寄宿舎生）
	10. 14	那須の保護者へ説明（PTA役員）
	10. 20	栃木の保護者へ説明（PTA役員）
	11. 2	教育長定例記者会見で、R5. 3月末の寄宿舎閉舎を発表
R4.	2. 22	保護者等が那須特別支援学校の寄宿舎存続を求める署名を県教育委員会に提出
	3. 29	那須特別支援学校保護者等説明会（第1回）
	5. 20	那須特別支援学校保護者等説明会（第2回）
	6. 14～ 7. 7	那須特別支援学校保護者相談会
	9. 14	栃木特別支援学校保護者説明会 ※学校主催
	9. 15	保護者等が「那須特別支援学校寄宿舎閉舎計画の停止を求める陳情書」を県議会に提出
	9. 30～ 10. 13	栃木特別支援学校保護者相談会
	10. 27	県議会の文教警察委員会が那須特別支援学校寄宿舎の現地調査
	11. 15	保護者等が那須特別支援学校の寄宿舎存続を求める署名を県及び県教育委員会に提出
	11. 24	県議会の文教警察委員会において参考人招致を実施
	11. 25	栃木特別支援学校保護者相談会
	11. 29	保護者等が「栃木特別支援学校寄宿舎の存続に関する陳情」を、署名とともに県議会に提出
	12. 2	12月県議会で教育長が2校の閉舎延期を答弁
	12. 19	「那須特別支援学校寄宿舎閉舎計画の停止を求める陳情書」及び「栃木特別支援学校寄宿舎の存続に関する陳情」が県議会で不採択
R5.	6. 5	栃木特別支援学校の保護者等が「栃木県特別支援教育の在り方について有識者を含む検討会議を設置することに関する陳情書」を県議会に提出（6.13陳情取り下げ）
	6. 9	議会で、教育長が検討会の設置を答弁
	7. 7	県議会の文教警察委員会が栃木特別支援学校寄宿舎の現地調査

特別支援学校における寄宿舎に係る他県調査結果まとめ

R5. 8. 28

1 調査の概要

(1) 調査目的

寄宿舎の在り方について検討するにあたり、全国の寄宿舎の現状を確認する。

(2) 調査対象 全都道府県

(3) 調査時期 令和 5 (2023) 年 7 月

2 寄宿舎の設置状況

(1) 特別支援学校の設置校数及び寄宿舎設置校数

	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	併設	計
特別支援学校設置校数	57	79	498	98	55	210	997
寄宿舎設置校数	57	61	96	36	3	48	301
設置割合	100%	77.2%	19.3%	36.7%	5.5%	22.9%	30.2%

(2) 特別支援学校（知的障害）に寄宿舎を設置していない都道府県数 11 都府県

3 過去 10 年間の寄宿舎の増減

(1) 寄宿舎が増加した都道府県

- ・ 4 都道府県 4 棟
- ・ 増加した学校の障害種 知的
- ・ 増加の理由 学校の新築（4 県が高等特別支援学校の新築（通学圏県内全域））

(2) 寄宿舎が減少した都道府県

ア 減少の状況

- ・ 10 都道府県 15 棟
- ・ 減少した学校の障害種 視覚 1、聴覚 3、知的 2、肢体不自由 3、病弱 1、併設校 5（※）
※併設校内訳 知肢 2、知肢病 1、知視聴肢病 2
- ・ 減少の理由 利用者減 5 学校統合 3 学校改築に併せた閉舎 1
他の特別支援学校の整備により閉舎 1

イ 閉舎後の対応

他校の寄宿舎と統合 3 学区の変更 1 生活実習室における教育活動を実施 1
特に対応無し 5

ウ 閉舎の検討方法

外部有識者を含めた検討会を実施 3
教育委員会内等内部のみで検討 4
特別な対応なし 2（隣接する 2 校の統合のため、利用者が 0 になったことによる閉舎）
経緯不明 1

(3) 今後の計画

- ・ 寄宿舎の増加計画あり 1
- ・ 寄宿舎減少の計画あり 3

4 寄宿舎の設置目的（回答県 特別支援学校（知的障害）で寄宿舎を設置している 36 都道府県）

設置目的	都道府県数	実施割合	備 考
通学保障	36	100%	遠距離通学者、送迎困難な家庭の支援
教育的入舎 を認めている	13	36.1%	生活指導のための受入れ
福祉的入舎 を認めている	4	11.1%	養育困難な家庭等の支援のための受入れ

個別の教育支援計画 Q&A



Q：作成の対象は？

- A：・小・中学校、義務教育学校及び高等学校の通常の学級に在籍する障害のある児童生徒（通級による指導を併用する場合を含む）
・小・中学校、義務教育学校の特別支援学級に在籍する児童生徒
・特別支援学校に在籍する幼児児童生徒

※指導計画の様式は、対象により異なります。

Q：活用の仕方は？

- A：・保護者との教育相談の資料として
・市町教育委員会が開催する教育支援委員会の資料として
・各学校が実施する校内教育支援委員会の資料として
・進路先への引継ぎの資料として

Q：「合理的配慮」を提供する際の留意点は？

- A：・「合理的配慮」の提供に当たっては、本人・保護者と学校の設置者及び学校が、建設的対話による相互理解を通じて合意形成を図ることが重要です。

Q：保管・管理の方法は？

- A：・個別にファイルを作り、支援機関一覧と指導計画をとり込みます。
年度が替わるごとに、支援機関一覧を更新し、新しい指導計画を加えます。
・関係機関との情報共有や進路先への情報の引継ぎの際には、原則として保護者の了承を得て行います。

※様式は、栃木県教育委員会事務局特別支援教育室のHPからダウンロードできます。

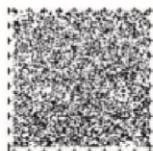
栃木県教育委員会事務局特別支援教育室

〒320-8501 宇都宮市塙田1丁目1-20

Tel.028-623-3381

URL <http://www.pref.tochigi.lg.jp/m05>

発行：平成29年3月



個別の教育支援計画の作成と活用

障害のある子どもが、生涯にわたり自立し社会参加していくことができるよう、就学前から学校卒業後までの一貫した支援を行うことが求められています。

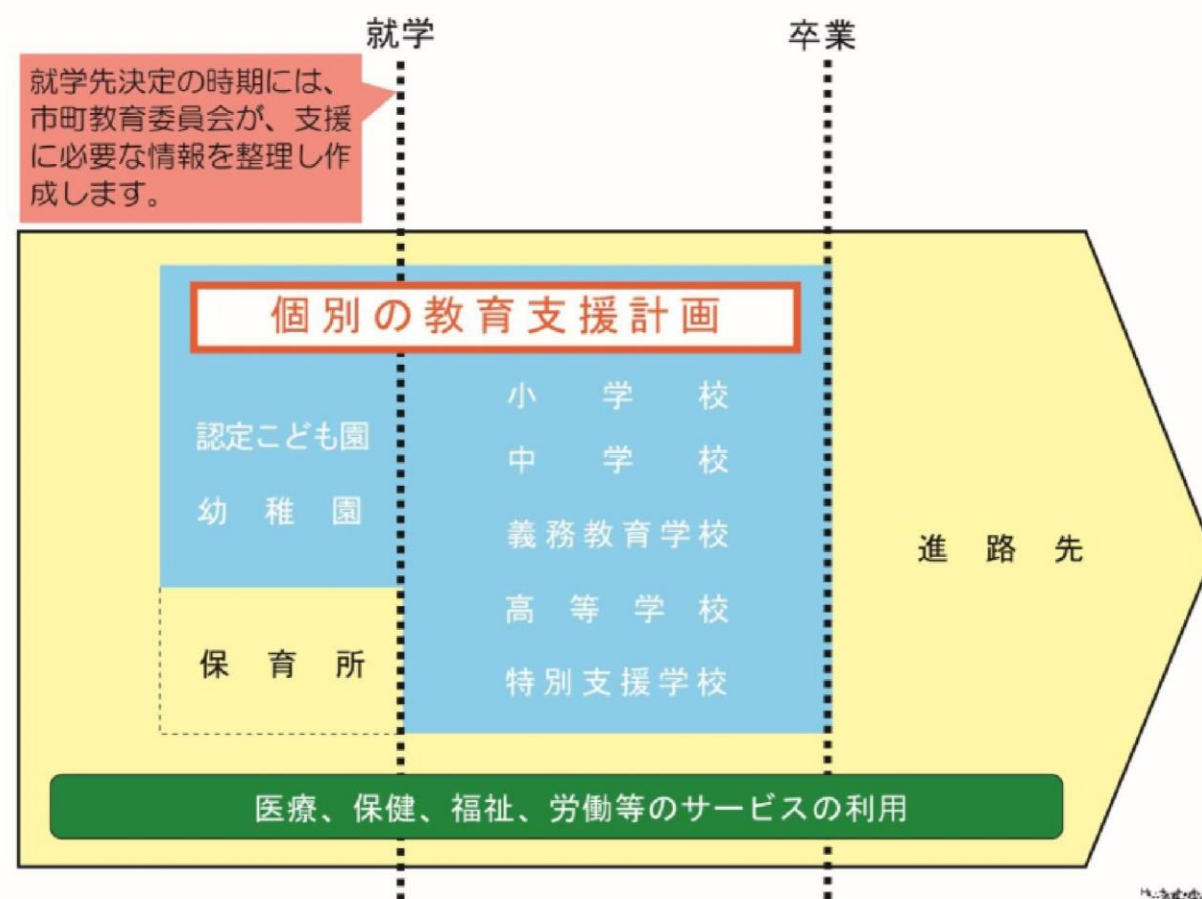
学校においては、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制を整え、個別の教育支援計画を活用して、家庭や医療、保健、福祉、労働等の関係機関と支援情報の共有化を図りつつ指導・支援に取り組み、その成果を進路先に適切に引き継いでいくことが大切です。



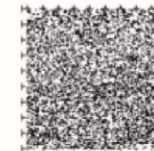
個別の教育支援計画とは？

生涯にわたる一貫した支援を行うため、子どもの各年齢段階における、関係機関による支援の全体像を示すとともに、学校が行う指導の目標や手立て、合理的配慮を示したものです。学校や市町教育委員会が作成します。

子どもの在籍機関と個別の教育支援計画等との関係



このコードは、視覚に障害がある人への情報提供を目的に作られた「音声コード」です。専用の活字文書読み上げ装置で、活字の情報を音声で聞くことができます。



平成〇〇年度 個別の教育支援計画

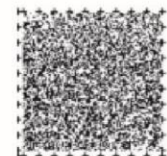
(小学校 知的障害特別支援学級 第1学年児童の例)

支援機関一覧

各年齢段階において、関係機関による支援の全体像を把握し、役割分担を明確にします。

年度の始めに、学級担任が記入します。

就学前	小学校・小学部	中学校・中学部	高等学校・高等部	卒業後
〇〇市健康課 障害福祉課 学校教育課	〇〇市健康課 障害福祉課 学校教育課	〇〇市健康課 障害福祉課 学校教育課	〇〇市健康課 障害福祉課 生涯学習課	〇〇市 障害福祉課 生涯学習課
母子保健 1歳6ヶ月児健康診査 3歳児健康診査 5歳児健康相談 (市保健センター)	小学校第2学年以降は、想定される支援の状況を参考までに記入してあります。			
〇〇病院(小児科) 担当: 〇〇〇〇 市子ども発達センター 発達相談: 〇〇〇〇 (〇歳~月1回)	〇〇病院(小児科) 担当: 〇〇〇〇 放課後等デイサービス(〇〇〇〇)	〇〇病院(小児科) 担当: 〇〇〇〇 放課後等デイサービス(〇〇〇〇)	〇〇病院(小児科) 担当: 〇〇〇〇 放課後等デイサービス(〇〇〇〇)	〇〇病院(精神神経科) 担当: 〇〇〇〇
〇〇幼稚園 担任3歳: 〇〇〇〇 4歳: 〇〇〇〇 5歳: 〇〇〇〇 〇〇特別支援学校 早期教育相談 (〇歳~月1回)	〇〇小学校 担任 1年: 〇〇〇〇 2年: 〇〇〇〇 3年: 〇〇〇〇 4年: 〇〇〇〇 5年: 〇〇〇〇 6年: 〇〇〇〇	〇〇中学校 担任 1年: 〇〇〇〇 2年: 〇〇〇〇 3年: 〇〇〇〇	〇〇特別支援学校 担任 1年: 〇〇〇〇 2年: 〇〇〇〇 3年: 〇〇〇〇	卒業後支援 高3担任: 〇〇〇〇 進路指導主事: 〇〇〇〇 同意会活動
家庭 基本的な生活習慣 父、母、姉、祖母	基本的な生活習慣 父、母、姉、祖母	進学・就労に向けた 公共交通機関の利用 父、母、姉	就労に向けた公共交 通機関の利用 父、母、姉	就労継続への支援 余暇活動 父、母
地域 図書館 コンビニエンスストア	子ども会育成会 図書館 コンビニエンスストア スイミングスクール	子ども会育成会 図書館 コンビニエンスストア スイミングスクール	図書館 コンビニエンスストア	図書館 コンビニエンスストア
労働 産業界等での実習 2年: 〇〇事業所 3年: 〇〇事業所 障害者就業・生活 支援センター〇〇 担当: 〇〇〇〇 ハローワーク〇〇 担当: 〇〇〇〇				障害者就業・生活 支援センター〇〇 担当: 〇〇〇〇



指導計画

子どもの実態と指導の目標や手立て、合理的配慮を記入します。
定期的に指導の評価と改善を行います。その蓄積が子どもの成長の記録となります。

学期ごとに、学級担任が記入します。

平成〇〇年4月25日記入

ふりがな 氏名	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇 〇〇	性別	男	学級	1年〇組	記入者名 (所属)	〇〇 〇〇 (担任)
診断名等	診断名: 知的障害 平成 〇〇年 〇月 〇日診断 医療機関名: 〇〇病院			服薬	有 (無)		
検査結果等	検査名 田中ビネー知能検査V 検査結果 IQ 〇〇 実施期日 平成〇〇年〇〇月〇〇日 実施機関 〇〇市教育委員会						
障害者 手帳	身体 有 (無) 種 級 (平成 年 月 日 交付)	療育 有 (無) (B2) (平成〇〇年〇〇月〇〇日交付・再交付)	精神 有 (無) 級 (平成 年 月 日 交付)				
家庭状況	・父、母、姉(小3)、本人、祖母の5人家族。 ・休日は父親や姉と一緒に、近所の駅で電車を見ることを好む。						
本人及び 保護者の 願い	【本人】 ・電車の運転手になりたい。 【保護者】 ・好きなことを生かし、できることを増やして欲しい。 ・通常の学級の友達と学習する機会をつくって欲しい。						
健康上の 配慮	・鶏卵によるアレルギーがあるため、給食等に配慮する。 アレルギー症状が出た場合の対応を校内で共通理解しておく。						
学習	うまくいっている状況 ・電車が好きで、写真カードを見ながら電車の名前を言うことができる。	つまづいている状況と必要な支援 ・自分から「～したい」と言うことが少ない。教師が2～3の選択肢を示すと、選ぶことができる。					
生活 の生活習慣	・家族や教師が簡単な手伝いを頼むと、進んで取り組もうとする。	・片付けの最中に遊び出すことがある。作業の手順をメモ帳に絵で示すと、最後までできる。					
対人関係	・好きな友達の名前を覚え、鬼ごっこなど、その友達と同じ遊びをしようとする。	・自分の思いを十分に伝えられず、友達を叩いてしまうことがある。教師が本児の思いを代弁すると、落ち着くことができる。					

(1学期)

1年間の目標	・身近な人に、自ら思いを伝えることができる。		
評価			
教科等	指導目標	指導の手立て	評価
国語	・ひらがなの単語カードの弁別ができる。	・電車の写真と名前カードのマッチングを行い、名前の文字数や形の違いで弁別できるようにする。	
算数	・1から5までの数を数えることができる。	・電車の模型などの具体物を用いて、数詞と模型を対応させながら数えることができるようにする。	
生活	・アサガオの成長に気付くことができる。	・アサガオの世話をしながら、支柱に印をつけたり、写真を撮ったりして、成長に気付くことができるようにする。	
音楽	・友達と声を合わせて歌うことができる。	・授業の導入に電車の歌を取り入れ、友達と歌えるようにする。	
図画 工作	・はさみの安全な使い方が分かる。	・電車の絵の切り抜きを行い、教師の見本を見ながら、はさみの安全な使い方が分かるようにする。	
体育	・リレー遊びに参加することができる。	・見通しがもてるよう、スタートとゴールの位置をカラーコーンで示したり、待つ場所を白線で示したりする。	
特別活動	・友達と一緒に遠足に参加することができる。	・見通しがもてるよう、同じ班の友達や日程について、事前に写真カードなどで確認できるようにする。	
自立活動	・自分の思いを教師に伝えることができる。	・本児が安心して話ができるよう、好きな電車についての話を十分に受け止める時間をつくる。	
教育内容・ 方法	・本児が意思を伝える場面では、教師が2～3の選択肢を示し、選べるようにする。 ・生活、音楽、体育科は、可能な範囲で通常の学級の授業に参加できるようにし、友達と学ぶ機会をつくる。		
合理的 配慮 支援体制	・本児に必要な支援の方法について、周囲の児童や教職員に理解してもらい、同じようにかかわってもらう。 ・災害時に安全に避難できるよう、本児に付き添う教員を決めておく。		
施設・設備	・安心して教室を移動できるよう、音楽室や体育館の入口にイラストを貼る。		
記載内容について承諾しました。 平成〇〇年5月10日 保護者氏名 (〇〇 〇〇)			

就学先決定の時期に、市町教育委員会の担当者が情報を整理します。